



校長室だより

校長 山崎 聡子

5年生 林間学校

7月9日(火)・10日(水)に、相模原の施設である、「ふじの体験の森 やませみ」に1泊2日で林間学校を実施しました。

1日目、2日目の朝は両日とも、日差しが強く、暑さも非常に厳しかったのですが、活動が始まる頃には、2日間とも空には曇りがかり、厳しい暑さから解放された時間となり予定していたプログラムを全て行うことができました。

1日目の最初の活動は、イニシアチブゲームです。その一つとして、半分に割られた短い竹をチーム全員が持ち、ビー玉をゴールに設置されている竹筒の中に入れていくゲームを行いました。最初は、思い思いに行動するのでもうまいかなかったのですが、何度か繰り返すうちに、竹を床に置いたり、みんながつながれた竹の中をチームの一人がゆっくりと自分の竹でビー玉を転がしていったりと、自然にコミュニケーションが生まれ、協力する姿が引き出されていきました。

次の活動は、野外炊事です。カレーの具材を準備する調理班とかまど・ご飯を準備する班に分かれて活動していきました。準備を終えた調理班がカレーの具材の入った鍋を外に持っていき、火をおこしてかまどの準備をしていた仲間とともに、カレーを煮込みます。ご飯もおいしく炊きあがりました。一人一人が自分の役割を担い、力を合わせて一つの食事を作っていき活動を通して、お互いの力を意識できたのではないかと思います。

1日目最後の活動は、キャンプファイヤーでした。寸劇から入りましたが、寸劇は、楽

をしたい、嫌なことから逃げたいという人間誰しもがもっている負の感情の部分をストレートに表現しながらも、最終的にはよりよく生きていくために、人として必要なことは何かを考えて行動していくことが大切であるという内容にまとめられていました。考えさせられる寸劇から始まり、歌・ダンス・ゲームと盛り上がりつつキャンプファイヤーを終えました。途中、光がさして彩られた山やくっきりと顔を出した虹に、「きれい」と感動の声を上げていた子供たち。あふれる自然の中でさらにみんなで目にした自然の美しさは、心に残る景色となったと思います。

2日目は、リバーハイクでした。川の中を歩き、段差のある水量の多い場所を上りました。上り切った子供たちは、達成感を感じることができたことと思います。また、川の中の生き物にもたくさん触れることができ、子供たちの表情は輝いていました。

金曜日に、振り返りを読ませてもらいました。「いつでも感謝することを忘れずに行動していく。自分から率先して行動するようにする」・「自分の役割を果たす・感謝の気持ちを言葉で表す・協力して物事を行う。これらを活かす」・「体育の授業やみんなと学習するときなどで、みんなと協力していく」等の感想がありました。「みんなで楽しく協力してやりとげよう・けがのない思い出に残るキャンプにしよう」という2つの大きな目標を掲げて臨んだ林間学校。お互いに支え合い、助け合っていた子供たち。たくさんの人や自然と触れ合う中で、様々なことを感じることも考えることができたこの2日間は、目標が実現できた、学びの多い時間となりました。